

Title	編集後記
Sub Title	
Author	奥田, 敦(Okuda, Atsushi)
Publisher	慶應義塾大学湘南藤沢学会
Publication year	2014
Jtitle	Keio SFC journal Vol.14, No.2 (2014. ) ,p.157- 157
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	特集 「スポーツ」の多様性を探る
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=0402-1402-0157">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=0402-1402-0157</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 編集後記

とても刺激的で、思わず身体を動かしたくなるような1号が出来上がりました。特集編集委員の先生がた、とくに取りまとめをいただいた小池智子先生、どうもありがとうございました。

さて、とにかくいろいろな可能性に富んだ一冊です。まず、慶應義塾がスポーツ界の発展に果たしてきた役割を知ることができます。行う側だけでなく観る側も含めスポーツの近未来を知ることができます。また選手たちの葛藤をくみ取りつつ勝利に導くコーチになることもできます。

ウォームアップの達人になって、怪我を未然に防げるようになります。運動不足に気づき、具体的な解消法とその楽しみ方を知り、友達も作れるようになります。あるいは、スポーツを通じてコミュニティを作ることもできます。スポーツマンによるスポーツビジネスの課題と展望を知ることができます。加えて、太極拳の身体的・精神的効用を知ることができます。本号は、こうした様々な事柄を具体的な方法とともにわかりやすく教えてくれます。

ところで、これらの作品に一貫して流れているのは、スポーツを一部の職業者たちの専有物にするのではなく、広くみんなのコモンズにするということ。まさに慶應義塾が今なお日本のスポーツ界において先導的役割を担っている証左であるように思われます。ウェルネス科目が幅広い選択肢とともに必修になっているSFCではありますが、この第14巻第2号を携えて、SFC自慢のジムに出かけ、まずは身体を動かしてみることから始めてはいかがでしょうか。

「練習は不可能を可能にする」とは、小泉信三がスポーツの与える3つの宝の一つとして本文で紹介されている言葉ですが、このことをスポーツにとどまらせないためにも、まずはスポーツなのかもしれません。

末筆とはなりましたが、いつも以上にタイトな日程の中、着実に丁寧に編集作業を進めていただいた湘南藤沢学会事務局に心からの感謝を申し上げます。

(大学院生の皆様に追伸)

『KEIO SFC JOURNAL』では、皆様からの投稿を心よりお待ちしております。自由論題については、特に締め切りはございません。育てる査読は、ご自身の研究を磨くうえで助けになると思います。どうぞ奮ってご投稿ください。

KEIO SFC JOURNAL 編集長 奥田 敦